

医療安全

参加形式: 必須

指標名: インシデント・アクシデント b.全報告中医師による報告の占める割合

定義の要約:

分子) 分母のうち医師が提出したインシデント・アクシデント報告総件数

分母) 調査期間中の月毎のインシデント・アクシデント報告総件数

指標の定義・算出方法:

- 調査期間中に医療安全管理部門へ報告されたインシデント・アクシデント報告の総件数を分母とする。
 - インシデント・アクシデント報告の原因となった事象の発生日は問わない。
 - 医療安全管理部門への報告日により分母の対象とする。
 - 同一患者における同一事例に対し複数のインシデント・アクシデント報告が提出された場合には、複数の報告は1件とせず、それぞれ個別に分母の対象とする。
- インシデント・アクシデント報告の報告が医師によるものを分子の対象とする。
 - 主たる報告者が医師以外の職種によるものは分子から除外する。
 - 同一患者における同一事例に対し複数の医師からのインシデント・アクシデント報告が提出された場合には、いずれも分子の対象とする。

| 式 | 単位 |
|-------|-----------|
| 分子÷分母 | % (パーセント) |

その他:

用語定義: インシデント・アクシデント報告とは、インシデント影響度分類に定められた範囲で医療安全管理部門へ報告されたものを指す。

インシデント影響度分類

| レベル | 障害の継続性 | 障害の程度 | 障害の内容 |
|--------|--------|--------|---|
| レベル 5 | 死亡 | | 死亡(原疾患の自然経過によるものを除く) |
| レベル 4b | 永続的 | 中等度～高度 | 永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う |
| レベル 4a | 永続的 | 軽度～中等度 | 永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない |
| レベル 3b | 一過性 | 高度 | 濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など) |
| レベル 3a | 一過性 | 中等度 | 簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛 |

| | | | |
|-------|-----|----|---|
| | | | 剤の投与など) |
| レベル 2 | 一過性 | 軽度 | 処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた) |
| レベル 1 | なし | | 患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない) |
| レベル 0 | | | エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった |
| その他 | | | |

意義:

身体への侵襲を伴う医療行為は常にインシデント・アクシデントが発生する危険がある。その発生をできる限り防ぐことは医療安全の基本である。仮にインシデント・アクシデントが生じてしまった場合、原因を調査し、防止策をとることが求められる。そのためにはインシデント・アクシデントをきちんと報告することが必要である。

一般に医師からの報告が少ないことが知られており、この値が高いことは医師の医療安全意識が高い組織の可能性がある。

留意点:

インシデント影響度分類のどの範囲までを医療安全部門に報告するかは施設によって異なる。またすべての報告を対象としており、1 案件に対し複数の職種や個人からのインシデント・アクシデント報告を行っている施設では分母数が多くなる。インシデント・アクシデント報告総件数が多いからといって医療安全に関して高い問題があるわけではない。

参考資料:

国立大学附属病院長会議常置委員会 医療安全管理体制担当校. 国立大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針(改訂版) 平成 24 年 6 月.